

【演 題】

『バランス療法、バランス検査と口腔内形態との関係』

『人の体の左右差を知り、口腔内の左右差との関係について知る  
～口腔内に左右差を作れば、生涯にわたり体の左右差に影響を与え続ける～』

歯科医師 川村 英司

(かわいまち歯科口腔医院 院長)

【抄 録】

歯の萌出位置は、舌と頬口唇の隙間、筋力のニュートラルな位置に萌出すると言われていています。さらに、顎骨の形態も筋力の影響を受けているので、歯の萌出位置は顎骨の理想の位置に萌出しないことが多くなります。しかしながら、歯がその位置に萌出したこと、その角度で萌出したことは、力の影響を受けた結果であり、ある意味、力のバランスの取れた位置であると言えます。この歯に対して、歯科治療に携わる者は、長きにわたる歯科治療の歴史の上で最善と考える形、位置に変えることを、エビデンスに基づいた治療として提供しています。そこでは、力のバランスへの配慮が考慮されていません。判断基準がないからなのです。

また、歯科治療によって体の状態、機能が改善する例を、学校教育の特別講義でも学び、卒後は全国にそのようなことに特化した治療をしているグループのことを伝え聞くことがあります。学会や厚生労働省の治療指針でも「口腔機能の回復が全身機能に及ぼす影響」はトピックの一つであり、高齢者のオーラルフレイルなどへの対応として関心が持たれています。

このように、力のバランスへの配慮、全身機能に及ぼす影響などが重要であることは理解してはいるが、歯科治療の前後でこの変化、良し悪しを判断する手段を持たないため、いつしか治療したことへの満足感だけで、根本的な解決に至っていないことに気が付かずにいるように感じます。このことにモヤモヤ感を感じる者が、全国のセミナーを渡り歩いているのが現状です。

セミナーを渡り歩いた一人として、全身の状態を把握できる検査方法、治療方法に出会えたので、ここで皆様にご紹介させていただき、今後の判断のヒントになれば幸いです。